

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」南宮崎校		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 7日 ～ 令和7年 11月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 7日 ～ 令和7年 11月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	楽しく活動に参加できる体制を整えている	定着した支援を継続することは活動が固定化されやすい為マンネリ化しないように心掛けている。	ご自身のやりたい気持ちを大切にしながら経験値をふやし自身のできることが増えるように支援に取り組みます。
2	担当制にすることで関係性の構築を図ることができている	お子さま1人ひとりの特性に合わせてその日の体調や様子について話すことで相談をしながら支援を進めています。	引き続きお子さま1人ひとりの様子を観察しながら関わることで、小さな変化にも気づいて対応ができるように意識していきます。
3	支援の様子を毎回丁寧に教えてもらえる	支援後は10～15分のフィードバックの時間を設けて今日のプログラムの狙いや支援の様子、ご家庭、通われている園の様子を共有しながら進めています。	フィードバックの時間内にお伝えすることが難しい場合はLINEでお伝えしています。 また相談がある場合はいつでも30分～1時間程度「家族支援」のご案内もしています。 引き続き保護者様との情報共有を丁寧にいき支援を進めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	駐車場が少ない	できるだけ多くの車が停められるように詰めて駐車して頂くように周知お願いしております。またイベント開催時は近隣駐車場にご協力を頂き駐車スペースの確保をしています	通常支援の際は時間内の来所やスムーズに帰宅のご協力をお願いしています。イベントの際は混みあわないように時間をずらして来所して頂くように工夫をしています。
2	ペアレントトレーニングなどの支援を行っていない	今後の状況を見ながら検討をしていく。 必要性が高まった場合は目的や内容を丁寧に説明したうえで	ペアレントトレーニングの実施が有効であるとした場合個別に相談した上で進めていきます。
3	緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症マニュアルなどの策定・周知・説明・訓練の実施の周知が定着できていない	契約時に事業所の閲覧スペースのご案内のみとなっている	定期的にブログなどのSNSツールを使って周知をします

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 南宮崎事業所

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数

29

回収数

23

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	4	0	0	必要なスペースは確保されているものの、走り回ったりすべり台からジャンプする場面では危険を感じることがありました。	安全面に配慮し、見守り体制や環境整備を行いながら、安心して体を動かせる活動内容を工夫してまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	23	0	0	0	マンツーマンで対応いただいているので問題無いと思います。	今後も基準に基づいた職員配置を維持し、お子さま一人ひとりに応じたマンツーマンでの支援体制の充実に努めてまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	14	1	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	1	0	0	相談員さんと相談して支援計画を策定しています。	今後も、相談支援専門員と連携しながら、お子様と保護者様のニーズや課題を踏まえた放課後等デイサービス計画の策定に努めてまいります。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23	0	0	0		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20	2	1	0	活動プログラムがあるのか分からないが、毎回同じで、工夫をあまり感じた事がない。	お子さまのペースや興味に合わせ、活動内容を見直しながら、固定化を防ぐ支援に努めてまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	13	5	0	きらり自体ではないが、きらり以外での交流はある。	支援プログラムとの整合性を確認しながら、事業所以外での交流も含め、経験の幅が広がるよう支援してまいります。口
保 護 者 へ の 説	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	0	1	0	最初は十分に質問できず時間が過ぎた印象があり、支援内容の説明を短く簡潔にしてほしいと感じつつ、総合的に支援していただいていると感じています。	フィードバック時には要点を絞った分かりやすい説明を行い、説明後に質問の時間を設けてまいります。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	23	0	0	0		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	22	0	1	0	よく見てくださっていて利用時の活動も都度報告いただけて安心する一方、真摯に話を聞く先生とそうでない先生がいて対応に差を感じることがあります。	職員間で情報共有を徹底し、対応のばらつきが生じないよう努めるとともに、一貫した支援が行える体制を整えてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23	0	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23	0	0	0		

明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	9	3	0	保護者同士の連携までは求めておらず、他の保護者と接する機会もほとんどありません。	保護者同士の連携を無理に求めることはせず、保護者様一人ひとりの意向を尊重した関わりを大切にまいります。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	6	0	0	これまで苦情の経験がなく、そもそも苦情を言ってもよいのか判断がつかないため分からないという状況です。	苦情対応の体制について分かりやすく周知し、安心してご意見をお伝えいただける環境づくりに努めてまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	23	0	0	0	ブログで報告いただいています。	月2回のブログ更新を通して、支援内容や活動の様子を分かりやすくお伝えしてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23	0	0	0		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	3	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	9	0	0	利用し始めてまだ期間が短いのでわかりません。	非常災害に備えた訓練の実施内容について、保護者の方へ分かりやすく周知してまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23	0	0	0		
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	23	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22	1	0	0	休みながらずつ毎回通うのを楽しみにしており安心して楽しく過ごせているのだと感じています。	今後も共感的な関わりを大切にしながら、お子さまが安心して楽しく過ごせる支援の継続に努めてまいります
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	1	0	0	毎回同じ遊びが続き、家と似たような過ごし方になっているように感じています。	安心して過ごせる環境を大切にしながら活動内容に工夫を加え、家庭とは異なる体験ができるよう成長に応じた支援に努めてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」南宮崎校				公表日	2026 年 2 月 14 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		行政指導のもと適正なスペースを確保し、枠ごとの上限設定や距離感への配慮、個別ブース環境整備によって、同時間帯の利用状況を把握しながら適切な支援を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		枠ごとに支援数の上限を設け、行政指導に基づいた定員・人員配置を適正に保ちながら、支援数や活動内容に応じて職員同士で調整・役割分担を行い、常に一对一の支援環境を確保している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	事業所内は段差がなく広々としたスペースを確保し、安全に行動できる環境を整えている。	玄関の段差や手すりの未設置箇所については、動線の見直しや転倒リスクの軽減など、バリアフリーへのさらなる配慮を進めている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動に合わせて机の配置や物の移動をしている		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別支援を行っているため個別の部屋で仕切りがあり他者が視界に入らないように配慮している		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	告知や個別の目標設定、児発管と担当での定期的な振り返りは行っている。	職員全体で共有し話し合う時間が不足しており、参画の機会を増やす必要がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の意見を自由記述で把握し、職員間で共有・話し合いを行っている。	毎年の事業所評価と連動させ、改善策を検討して業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に個別面談を実施することで日常業務の中での課題や困り事などの意見について改善に向けて取り組んでいる		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価を実施していないため、外部評価の機会を職員間で共有している。	現状の改善策を正しく検討しながら組織全体で改善へつなげていく必要がある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人や事業所で実施される研修や有志研修に積極的に参加している。	研修時間を確保しながら職員の資質向上に努めている。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援方針や目的に合わせて支援プログラムを作成し職員間同志で共有し支援を行っている		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		モニタリングやアセスメント内容を踏まえ、多角的な視点で個々のニーズに応じた支援計画を作成している。	年1回更新するとともに、細かな情報共有を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保護者の意向とこどもの状況を踏まえながら双方の視点を大切にしながら支援会議において支援内容を検討・共有している		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々の記録を取ることで誰が対応しても同様の支援が行えるように計画に沿った支援を行っている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートを活用し、細かな状況把握をもとに常に確認・更新しながら、発達支援研究所と会社が作成した資料を時代に合わせて活用している。	年1回改訂し、支援に活かしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		発達段階や特性に応じて個別支援計画に具体的な支援方針を記載している		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○	個別支援の担当制によりチーム全体で内容を共有できていない。	職員同士のやり取りだけでなく、支援内容を共有し合える体制づくりが課題となっている。	

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	利用児の興味やペースに合わせて臨機応変に支援内容を調整し、スモールステップで自己肯定感を高めながら、毎回変化のあるプログラムを立てて状況を把握しつつ取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。		基本は個別支援を行いながら、子どもの状況を保護者と共有したうえで支援計画を作成し、イベント時などに小集団活動を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	担当制のもと、朝礼や支援前の打ち合わせで最近の様子や支援内容を申し送りし、必要な引き継ぎを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	必要に応じて記録やメモで情報を残し、担当制の中でも状況に合わせて適宜打ち合わせや共有を行うよう工夫している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	日々の支援記録を漏れなく正確に記載し、前回の記録から子どもの様子を読み取って検証・改善につなげ、次回の支援に活かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的にモニタリングを実施し、現状を把握したうえで必要に応じて支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	5領域とガイドラインの基本活動を意識し、児の状態やペースに合わせて適宜組み合わせながら、日常生活の質の向上につながる支援プログラムを作成している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	こどもの意志や気持ちを尊重し主体的に関われるように支援を行っている	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	主に児童発達支援管理責任者が参画し、状況に応じて担当職員も参加しながら、現状把握や分野・知識の共有を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	医療的ケア児の受け入れは現在行っていないため、今後に備えて連携医や連絡先の確認を含めた体制整備を進めていきたい。	受け入れに向けた準備を強化していくことが課題となっている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	事前確認や必要時の臨機応変な対応を行い、学校や保護者からの希望に応じて情報共有しながら、適切な対応が取れるよう努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	申し出や必要に応じて関係機関と適宜連携し、共有体制を整えながら定期的な訪問や話し合いを通して相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	必要時に担当者会議を開き、希望や状況に応じて関係者と連絡を取り合いながら支援内容を共有し、継続的に連携できる体制を整えている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	必要に応じて外部機関や発達支援研究所の研修に主体的に参加し、内部研修でも専門的視点を取り入れながら現況を把握し、支援の質向上に努めている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	個別支援中心で障害のない子どもと関わる機会が少ないため、イベントなどで交流の場を取り入れたい。	共に活動できる機会を今後の課題として検討していく必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	児童発達支援管理責任者が自立支援協議会へ参加し、外部との連携や学びの機会を確保しながら、必要に応じて情報共有や研修参加に努めている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	開所初年度から地域の会議や研修に児童発達支援管理責任者や職員が継続して参加し、情報収集や関係機関との連携につなげている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	ママカフェなど個別対応は行っている一方、ペアレントトレーニングなど体系的な保護者支援が実施できていない。	今後取り入れていく体制づくりが課題となっている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に必要事項を丁寧に説明し、利用者が理解しやすいよう適宜対応しながら、分かりにくい部分にも配慮して説明を行うよう工夫している。	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別面談の場を設けてモニタリングを行い保護者や本人の意向を聞いている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援計画作成時に目標や支援内容を分かりやすく説明し意向の確認を行い同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		支援後のフィードバック時に保護者の相談や悩みに丁寧に、職員間で共有しながら、必要に応じて関係機関とも連携し、専門的な助言につなげている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		年に数回、親子レクリエーションやママカフェ、保護者会を開催し、親子で関われる機会や保護者同士がつながれる場を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談体制を整え、職員間で確認・連携しながら保護者の気持ちに寄り添った丁寧かつ迅速な対応を行い、必要に応じて関係機関とも連携している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログ・LINE・Instagramを活用し、活動の様子や予定を定期的かつ継続的に発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報を含む書類は鍵付きロッカーやキャビネットで施錠管理し、保管場所を把握したうえで守秘義務を徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		ガイドラインに基づき権利擁護と支援の質を意識しながら、子どもや保護者に合わせた分かりやすい伝え方や具体例を用い、必要に応じてLINE等も活用して信頼関係を大切にしたい情報共有を行っている。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		ハロウィンなどのイベント時に地域へ訪問したり協力を依頼することで、地域の方々とコミュニケーションを図り、連携を深める工夫をしている。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを契約時や研修を通して職員・保護者に周知し、会社全体で想定訓練を行っている。	必要に応じて改善点を確認し臨機応変に対応している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年間計画に基づき災害や感染症発生時を想定したBCPを作成し定期的に避難訓練や非常時の対応方法を共有している	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始時に服薬内容やてんかんの有無の確認をしている	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事提供は行わない方針の中で、契約時の確認やイベント時の事前聞き取り、LINEでの再確認を徹底し、医師の指示書に基づき必要な対応を適切に行えるよう情報共有をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		事故防止や非常時対応を目的とした安全計画を作成し研修・訓練を実施している	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		利用開始時に安全計画の概要や非常時の対応について説明している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事業所内外で報告書をその都度作成・共有し、閲覧ファイルへの保管や朝礼での声かけ、月2回の周知・確認を行うことで、職員全体での情報共有を徹底している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会の設置と定期的な研修を通して、職員が積極的に学ぶ機会を確保し、適切な対応ができるよう常に意識して取り組んでいる。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束については契約時に児童発達支援管理責任者が丁寧に説明し、内容を確認したうえで保護者の同意を得て同意書を交わしている。	